

【理念】

医療と福祉の連携をとり、介護員、相談員、ケアマネジャー、医師、看護師、栄養士、歯科衛生士それぞれの専門性、独自性、応用力を活かし、一貫したケアを行い入居様が安全かつ安楽な生活を送ることが出来るように努める。

【目標】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
- ② 皮膚トラブルの予防に努める。発生時は適切な処置を実施し早期治癒を目指す
- ③ 感染症の予防と拡大防止
- ④ 看取り介護の質の向上
- ⑤ 接遇・礼儀の徹底に努める
- ⑥ 経費削減に努める

【実践報告】

- (1) 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
 - ・ロング入居者様は週 1 回のバイタルサイン測定（以下 VS 測定）と入浴時の検温を実施、SS 利用者様は毎日 VS 測定している。退院後や食事、排泄、精神状態に変調があるときは適宜 VS 測定を行い、異常の早期発見、対応に取り組んだ。
- (2) 皮膚トラブルの予防と改善に努める
 - ・排便間隔、入浴回数等の関係から褥瘡の再発を繰り返している。また終末期において重度の褥瘡治癒を目指し、介護員と連携を取りケアを実施する。
- (3) 感染症の予防と拡大防止
 - ・今年度は家族と職員のインフルエンザの発症は数名あったが入居者様の発生はなかった。職員の徹底した感染予防行動と各種関係機関との情報共有、密な連携の結果と思われる。感染拡大時の対応を忘れず、常に危機管理意識を持つ。
- (4) 看取り介護の質の向上
 - ・29年度は8名の入居者様がふるさとで最期を迎えられた。内1名はSS利用者様であった。回復の見込みがなく看取りを迎えるために退院された入居者様、肝がん末期のSS利用者様と最期を迎えるまでの状態変化に伴う介護、看護は大変であったが最大限の苦痛緩和と安楽を目標に職員が寄り添い、最期を看取らせていただいた。
- (5) 接遇・礼儀の徹底に努める
 - ・職員間同志の言葉遣いの改善はみられない。お互い注意し合える職場環境を目指してゆく。
- (6) 経費削減に努める
 - ・処置に使う物品の個人購入、医療や衛生材料を定期的に見直す事によって、経費削減ができています。

平成29年度 病院受診者数と受診内容

	受診者数 (入院者数)	ロング入居者様の受診内容							ショートステイ利用者様の受診内容						救急搬送
		発熱	心不全 心疾患	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	発熱	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	
H29 4月	13 (2+1)					7	4	11	1				1	2	
5月	9 (2+0)	1		1		3	1	6				1	2	3	
6月	19 (2+1)			2	1	8	5	16	1		1		1	3	1
7月	14 (0+2)	1			1	6	1	9		1	1	1	2	5	1
8月	12 (2+0)	1		1			6	8				3	1	4	1
9月	11 (2+1)	1		3		2		6	2			3		5	
10月	14 (3+0)	3				5	4	12			1		1	2	
11月	24 (2+1)	1		4		7	3	15		1		6	2	9	
12月	13 (1+0)			3		8	2	13						0	
H29 1月	12 (2+0)	1		1		3	1	6	2	1		3		6	
2月	16 (3+1)	1			2	3	1	7	1			6	2	9	
3月	14 (4+1)	5		1			1	7				6	1	7	
合計	171 (25+8)	15		16	4	52	29	116	7	3	3	29	13	55	

平成 29 年度 受診動向のまとめ

特養ホーム 医務

平成 29 年度におけるショートステイご利用者様（以下 SS ご利用者様）、ロング入居者様（以下入居者様）の受診動向の確認を行いました（別紙資料 1 をご参照ください）。平成 29 年度における受診者数、受診内容を確認することで傾向と対策を見出す手がかりとし、30 年度における受診をさらに減少できればと考えます。

SS 利用者様の受診総数は 55 件で昨年度より 39 件減少しています。定期受診や、その他の受診の減少によるものでした。入院件数は 2 件減少し 8 件でした。多くは何らかの感染による発熱のための入院でした。安定した心身の状態で安全に利用期間を過ごせるよう関係各種と連携を図ってゆき、更なる受診件数の減少に繋げてゆきたいと思えます。

ロング入居者様の受診総数は 116 件で昨年度とほぼ同数の受診件数でした。今年度もインフルエンザの発症は認められませんでした。年度末の気候の変化に体調を崩された方が多くいらっしゃいました。受診には至らず、施設対応で回復されております。次年度も感染時期の SS 利用時の迅速な情報の共有が感染防止の環境整備や隔離対応に繋がると考えるため継続していきたいと思えます。

入院件数は 6 件の減少となりました。今年度はこれまでと違い、脳血管や胆管系、骨折、肺炎等によるもので、入院となった理由は様々でした。看護師だけでなく介護職員による適切な観察、アセスメントによる対応、対処が実施されるよう各疾患別の医療知識を高めていく必要があると考えます。

平成 29 年度の退居者数

*退居者総数	13名
病院死亡者数	4名
ターミナルケア加算 死亡者数	9名
ターミナルケア加算外 死亡者数	1名
(SS 利用者様 1名)	
転院者数	1名